

平成29年度総社市市民提案型事業 実績報告会

秦歴史遺産保存協議会

(会員数 312人)

平成30年5月25日

ミステリーゾーン吉備の国秦の郷歴史探検 事業 (平成29年度申請対象事業)

1. 秦原廃寺シンポジウム開催。
2. 古代吉備の国、秦の郷周辺史跡めぐりツアー。
3. 古代吉備の国歴史遺産マップ作製。
4. 秦の郷88か所巡りコース再現プロジェクト。
5. 毛利対三村の備中兵乱の荒平山城跡を整備し、古戦場として観光地化。

第1

秦原廃寺シンポジウム開催。

総社市学習の館 平井典子館長を講師に、秦原廃寺の歴史的意義等についてのシンポジウムを開催しました。

(1)開催日 平成29年5月21日(日)

(2)参加者 70名

(3)ねらい

- ・なぜ秦に中四国で最も古いとされる飛鳥時代の寺があったのか？
- ・秦原廃寺の寺域と伽藍配置は？(四天王寺式)

(4)課題

- ・出土品(軒丸瓦、押出仏、礎石、高野槿柱)の分散

第1

秦原廃寺シンポジウム開催（平成29年5月21日（日）） （於いて:秦小学校体育館）



秦原廃寺基調講演



基調講演 平井典子講師

秦原廃寺伽藍配置模型 備前焼 (1/150)



南北に一直線に南門、中門、五重の塔、金堂、講堂が配置されていたことが判明

シンポジウム風景



シンポジウム（左から平井典子、板野忠司、登森康郎）

秦氏との関係は、依然として謎

第2

古代吉備の国、秦の郷周辺史跡めぐりツアー。

古代吉備の国を代表する史跡である楯築墳丘墓、造山古墳、こうもり塚古墳の3ヶ所をバスでめぐり、総社市教育委員会文化課高橋進一主査及び総社市学習の館平井典子館長の説明を頂き、秦の歴史との関係を考察しました。

(1)実施日 平成29年11月16日(木)

(2)参加者 62名

(3)成 果

- ・ 弥生時代の楯築墳丘墓に次いで古墳時代前期の秦茶臼嶽古墳(3C末)が見つられ、古代吉備の支配者が備中地域にいたことが判明。
- ・ 古代吉備の国としての吉備路は、高梁川西岸・右岸両方に広がっていたといえる。
- ・ こうもり塚古墳と金子石塔塚古墳は、ともに横穴式で類似していること。

古代吉備の国、秦の郷周辺史跡めぐりツアー。



楯築墳丘墓にて説明を受ける(高橋主査)



造山古墳にて説明を受ける(平井館長)

第3

古代吉備の国歴史遺産マップ作成。

古代吉備の国の中心または先進地域とされる総社市及び秦の郷の周辺歴史遺産について、わかりやすい現地案内用のマップを作成しました。
(別添マップ参照)

(1)プロジェクトメンバー 9名

(2)作成部数 1000部

(3)成果

- ・ 総社市周辺の歴史遺産の所在、相互の関連等がひと目でわかり、現地を訪れる際に非常にわかりやすく便利。
- ・ 古代吉備の国を象徴する吉備路は、高梁川の両岸にわたり数多く存在していること。

第3

古代吉備の国歴史遺産マップ作成



プロジェクトメンバー

古代吉備の国歴史遺産マップ(表)

備前焼
秦原廃寺伽藍配置模型

発行日 平成20年3月
発行 備前史迹保存協議会
監修 姫田市教育委員会
指導 姫田市歴史文化財学顕彰会

◎備前中興分寺
◎姫社宮
◎備前津神社
◎吉備寺
◎空南ノ城
◎赤こもり塚古墳
◎上相阿
◎福原遺跡

古代
吉備路
歴史遺産
マップ

①一丁塚古墳

◎佐波神社
◎姫社神社
◎比羅神社
◎金子石塚塚古墳

秦の御
マップ

◎一丁塚古墳
◎佐波神社
◎姫社神社
◎比羅神社
◎金子石塚塚古墳
◎備前津神社
◎吉備寺
◎空南ノ城
◎赤こもり塚古墳
◎上相阿
◎福原遺跡
◎荒平山城跡
◎古川寺
◎香天山神社
◎聖都鹿寺
◎丁塚古墳
◎聖八幡神社
◎石塚塚古墳

◎石塚神社
◎古川寺
◎香天山神社
◎聖都鹿寺
◎比羅神社
◎聖八幡神社
◎荒平山城跡

<p>吉備津神社</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1月3日 天立の神事 ● 5月 奉納盆踊り ● 12月 奉納盆踊り 	<p>新本地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 6月 奉納盆踊り ● 8月 奉納盆踊り
<p>備前津神社</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2月 奉納盆踊り ● 7月 奉納盆踊り ● 12月 奉納盆踊り 	<p>備前寺</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 7月 奉納盆踊り ● 12月 奉納盆踊り

第4

秦の郷88か所巡りコース再現プロジェクト。

四国88か所霊場巡りに習って開設された秦の郷88か所について、不明となっている一部を調査し、標識等で再現した。また、地図入り冊子を作成しました。(別冊、参照)

(1)プロジェクトメンバー 8名

(2)作成部数 2000部

(3)成果

- ・ 秦の郷88か所の石仏は、秦、福谷、下倉にわたり設置されていたこと。
- ・ 地図入り冊子と現地標識により、88か所をウォーキングコースとして巡ることが可能。
- ・ 88か所は、空海(真言宗)関係の寺だけでなく、禅宗等多岐にわたる寺があること。

88か所巡りのマップ(一例)



プロジェクトチーム調査



プロジェクトメンバーによる現地調査

立札杭打ち（各石仏への表示）



石仏の手直し（コンクリートで手直し）

第5

毛利対三村の備中兵乱の荒平山城跡を整備し、
戦国時代古戦場として観光地化。

荒平山城跡周辺を整備し、荒平山城跡を再現表記し、周辺の山脈を円盤状に表記し、周辺に由緒板及び幟旗を設置しました。

(1)プロジェクトメンバー 7名

(2)幟 10本

(3)陣幕 1枚

(4)防御柵 2ヶ所

(5)成果

- ・新たに設置した由緒板、円形表示盤、陣幕、幟旗、などにより、備中兵乱の一角となった荒平山城跡の存在が明確となり、訪れる人の理解と関心を深めた。

荒平山城「堀切」の外に設置した毛利軍の幟旗



荒平山城南入口

一ノ壇に設置案内看板と川西陣営の幟旗



荒平山城北入口

川西陣営の幟旗と防御柵



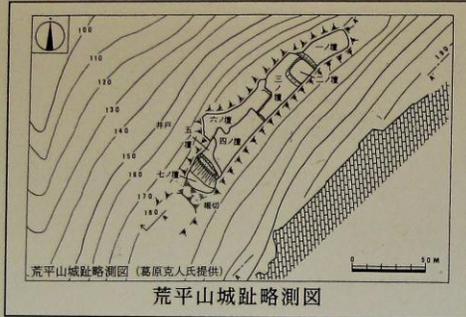
荒平山城由緒板

荒平山城由緒

荒平山城は永享年間(一四二九～一四四〇)に地元
の豪族、川西氏によって築城されたといわれる。

平時の居館は山裾にあり、戦時の山城と対になっ
ていた。城は尾根上にあり、全長は一五〇メートルにお
よぶ。各々の壇には石を使わず土盛のみで整形してお
り、西の「尼子谷」に井戸がある。

天正年間(一五七三～一五八五)の備中兵乱期には
川西氏が三村氏に味方したため、天正三年(一五七五)
に毛利方の小早川隆景に攻められた。城兵はよく奮戦
したが、城主川西之秀は城兵の助命を条件に降伏、開
城し、讃岐へ落ちのびた。これ以降、廃城となったと
思われる。



荒平山城趾略測図



荒平山城鳥瞰図(想像図)

平成三十年 三月

秦歴史遺産保存協議会

【当由緒板は総社市市民提案型事業の補助金をいただき作製いたしました。】

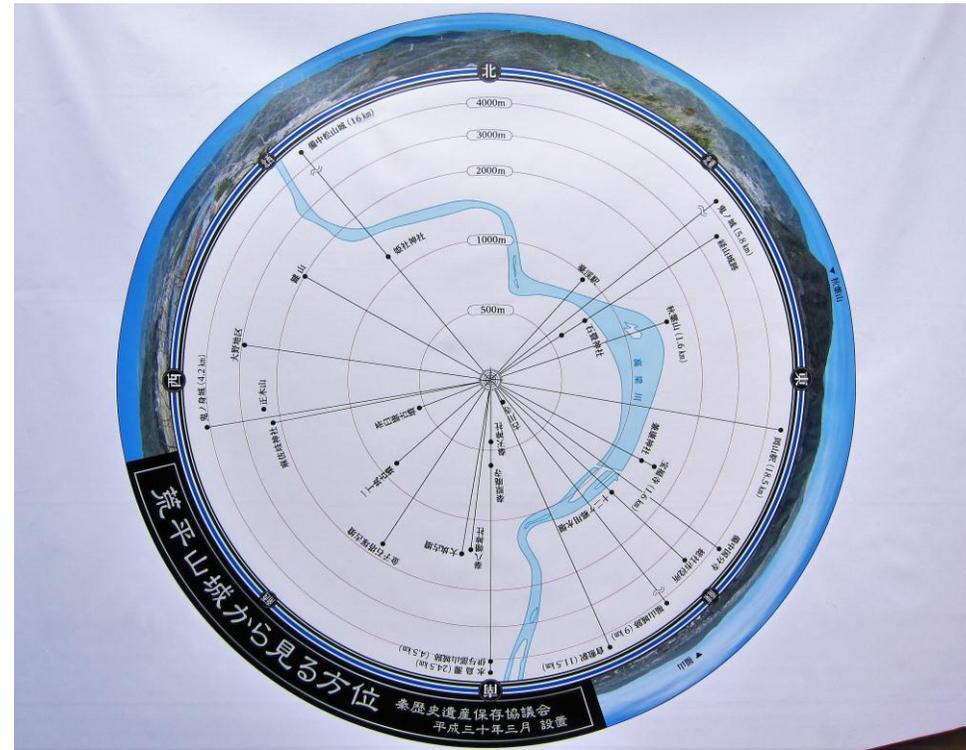
二ノ壇の本丸(現在は展望台)内に設置

荒平山城の由緒板及び円形方位盤



二ノ壇の本丸(現在は展望台)内に設置

円形表示盤



川西陣営の陣幕



看板類の取付作業

平成30年3月17日（土）



案内看板の下で作業のメンバー

お わ り

ご清聴、まことにありがとうございました。